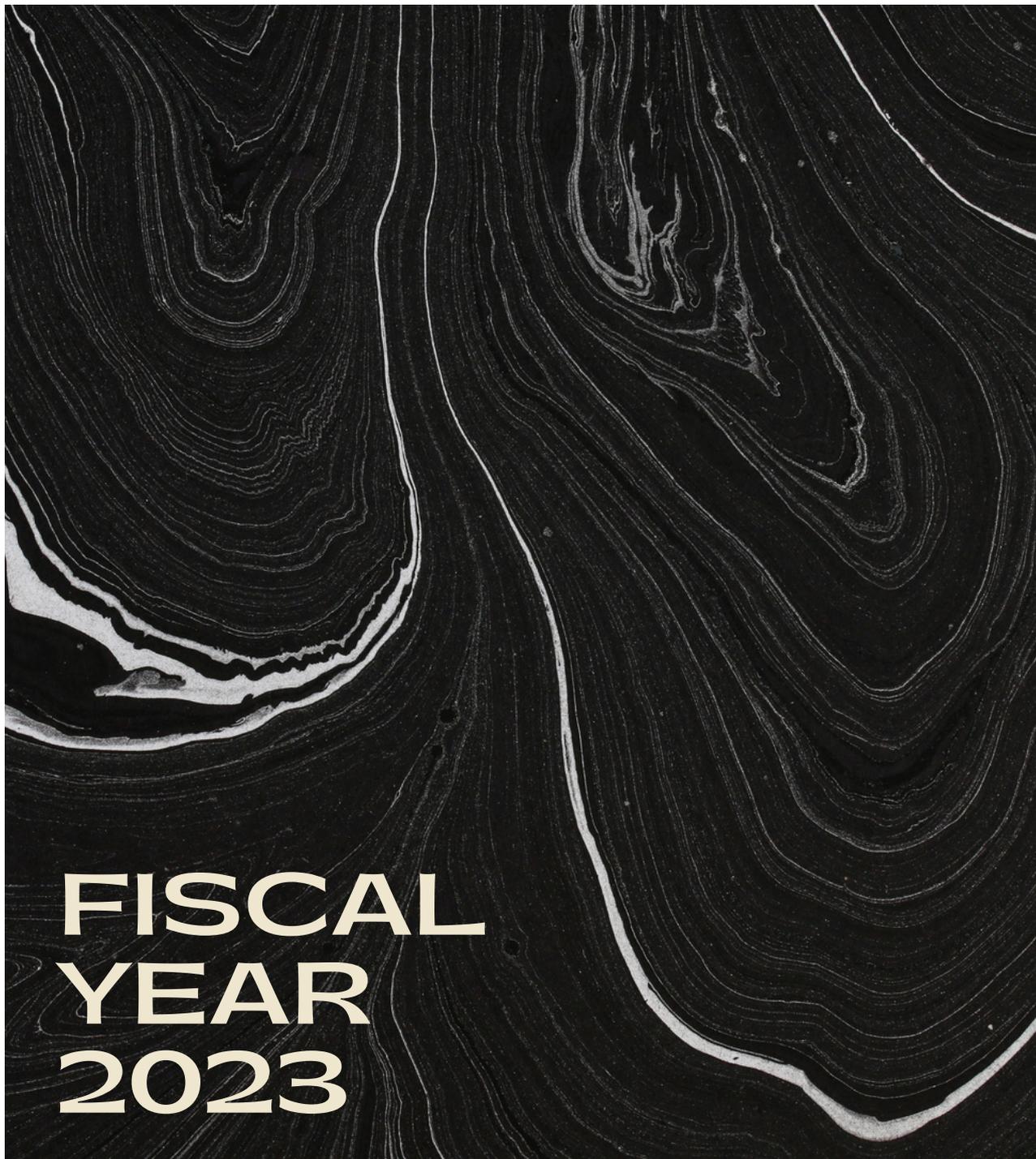


地域企業と連携した次代の京都の担い手育成事業  
年次報告書



FISCAL  
YEAR  
2023

2023年度京都市総合企画局総合政策室委託事業



# 目次

I.事業概要	p.1
II.活動概要	p.2
III.課題解決型プロジェクト（PBL）紹介	p.5
①食に関する3社連携！短期集中インターンシップ型PBL～チャレンジサマープロジェクト2023～ （株式会社アグオル）	
②食に関する3社連携！短期集中インターンシップ型PBL～チャレンジサマープロジェクト2023～ （合同会社津田樓）	
③食に関する3社連携！短期集中インターンシップ型PBL～チャレンジサマープロジェクト2023～ （株式会社カネ七島山製茶）	
④学生マンションにあったら嬉しいダンボール家具を考えるプロジェクト！ （洛西紙工株式会社）	
⑤「内機帯地」西陣織魅力発信プロジェクト （吉村織物株式会社）	
⑥日本を代表する酒の名産地 京都伏見の蔵元で「酒造りにかける信念と情熱～伝統と挑戦～」を学ぶ" （招徳酒造株式会社）	
⑦突破しよう！もっと京都が好きになるプロジェクト （TOPPAN株式会社）	
⑧⑨⑩将来世代と服の未来を考える～将・服・万・来プロジェクト～ （株式会社ヒューマンフォーラム、株式会社アーバンリサーチ、株式会社京都紋付）	
IV.企業訪問プログラム紹介	p.15
①フィールドワークで見る京都企業 ～株式会社特殊高所技術の裏側に密着～ （株式会社特殊高所技術）	
②世界を魅了する日本酒（Japanese Sake）の魅力を知る ～日本を代表する名産地 京都・伏見の築100年の店舗で 最新のトレンドを学び・味わう～ （NPO法人伏見観光協会（伏見夢百衆））	
③世界に誇る京都の匠の技と先端技術が融合するものづくり企業に密着！ ～社長や現場で働く人と対話を通じて ものづくり企業の魅力を発見しよう！～ （佐々木化学薬品株式会社・株式会社名高精工所）	
プロジェクト活動写真	p.19

# I. 事業概要

## 「地域企業と連携した次代の京都の担い手育成事業」

### 1. 背景

本市では、令和3年8月に策定した「京都市行財政計画」における「都市の成長戦略」として、「若い世代に選ばれる千年都市」をはじめ、5つの都市デザインを掲げ、京都で学ぶ留学生を含む学生（以下、「学生」という）を対象に京都への愛着や関心を醸成する各種の取り組みを通じ、京都を愛する京都ファンの確保、さらには学生の市内での定住促進・次代の京都の担い手育成という好循環につながる都市を目指している。この取り組みの一環として、京都の地域企業（以下、「地域企業」という）と連携し、学生が就活前の早い段階から様々な分野の地域企業と出会い、そして関心を持つ場づくりを通じ、次代の京都の担い手をはぐくむきっかけづくりを図る。また、学生が実地で企業が直面している各種の課題解決型学習に取り組む事業を推進する。

### 2. 趣旨・目的

大学や国籍の枠を超えた留学生を含む学生を、グローバルな視点と地域（ローカル）の発展を支える情熱を併せ持った「グローバル人財」（注1）として育成するとともに、学生と企業がお互いを知る機会を創出することを目的とする。具体的には、多様な主体からなる学生チームによる、京都企業との骨太な連携プロジェクト（PBL型）（注2）と、普段触れることができない地域企業の取組や魅力に触れる機会として企業訪問を実施する。

- ① グローカル人財の育成
- ② 学生と企業の出会いの機会創出
- ③ 学生へのグローバルかつ実践的な協働経験の創出

（注1） グローカル人財：グローバルな視点と地域（ローカル）の発展を支える情熱を併せ持つ人財

（注2） PBL:アクティブラーニングに位置づけられる実践的教育手法  
Project Based Learning（課題解決型学習）

# II.活動概要

## ■概要

地域企業と連携した次代の京都の担い手育成事業を受託した、特定非営利活動法人グローバル人材開発センター（以下、略称：グローバルセンター）が、企業と連携したPBL（課題解決型学習）型プロジェクトの開発・運営と地域企業と学生の出会いの場としての企業訪問プログラムの企画・運営を行った。地域企業の関心や抱えている課題をテーマに設定し、企業とグローバルセンターがともにプロジェクト化を行い、大学の垣根を越えた学生の混合チームで取り組んだ。チームは留学生を含む大学生・大学院生による5～10名程度のチームで構成されており、学生はプロジェクトを通じて、社会における実践的な力を養い、連携企業についての知識はもちろんのこと「働く」や「仕事」について深く学び、考えるマインドを身に付けた。

プロジェクト開始時に地域企業に関するレクチャーを実施し、企業を見る目を養い、日々の企業との連携から地域企業の魅力を体感し、地域企業の魅力を知る機会が創出されるよう、プロジェクトの設計を行った。

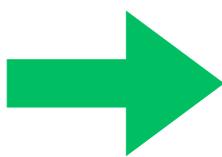
これからの社会と企業活動はますますグローバル化し、かつボーダレス化していく。本事業では、こうした将来の社会を見据え、学生時代から、多様な文化的背景・社会的背景を持つ主体から構成される集団において、リーダーシップ・フォロワーシップの経験を積むことができるよう、プロジェクトの開発・運営を進めた。

企業訪問プログラムでは、学生は企業の現場を見学することで、地域企業と実社会との接点をイメージできるよう、普段見ることができない企業の裏側や地域企業のこだわり・強みに触れる訪問内容の設計・運営を行った。加えて、対話をベースとしたワークショップを実施することで、見学で体験した内容をより深い気づきや学びとして内面化できるよう企画した。また、ワークショップではコーディネーターが学生と企業人の仲介を行い、参加者全員に発話の機会を設け、両者の細かなニーズを満たす工夫を行った。

## ★2023年度＜参加人数・プロジェクト数＞

○参加学生

52人



日本人学生 48人  
留学生 4人

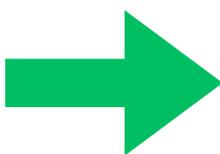
○実施プロジェクト数

10プロジェクト

## ★10年間（2013～2023年度）の実績

○参加学生

607人



日本人学生 502人  
留学生 116人

○実施プロジェクト数

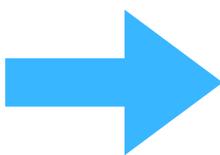
101プロジェクト

課題解決型プロジェクト  
(PBL)

## ★2023年度企業訪問プログラム（3回実施）

○参加学生

17人



日本人学生 15人  
留学生 2人

- ・株式会社特殊高所技術
- ・NPO法人伏見観光協会（伏見夢百衆）
- ・佐々木化学薬品株式会社、株式会社名高精工所

企業訪問プロジェクト

# 過去参加学生の所属大学一覧（大学コンソーシアム京都加盟校）

※プロジェクト・企業訪問プログラム含める（順不同）

## 【大学】

- ・大谷大学
- ・京都大学
- ・京都教育大学
- ・京都先端科学大学
- ・京都外国語大学
- ・京都工芸繊維大学
- ・京都産業大学
- ・京都情報大学院大学
- ・京都女子大学
- ・京都精華大学
- ・京都芸術大学

- ・京都美術工芸大学
- ・京都橘大学
- ・京都府立大学
- ・京都文教大学
- ・花園大学
- ・同志社大学
- ・同志社女子大学
- ・佛教大学
- ・龍谷大学
- ・立命館大学
- ・京都経済短期大学
- ・京都外国語短期大学

- ・京都光華女子大学
- ・京都ノートルダム女子大学
- ・嵯峨美術大学
- ・嵯峨美術短期大学
- ・平安女学院大学
- ・放送大学

29 大学

## 【大学院】

- ・京都大学大学院
- ・京都産業大学大学院
- ・京都府立大学大学院
- ・立命館大学大学院
- ・京都工芸繊維大学大学院

5 大学院

# PBL連携・協力先<企業・団体>（順不同） ※本年度連携企業 赤字記載

- コミュニティバンク京信（京都信用金庫）
- 株式会社ケービデバイス
- 株式会社ブリッジコーポレーション
- 和晃技研株式会社
- 京都高度技研研究所 (ASTEM)
- 京都朱雀ロータリークラブ
- NPO法人クリエイター育成協会
- 株式会社MIYAKO
- 株式会社太鼓センター
- 都タクシー株式会社
- 株式会社大垣書店
- 岩井木材株式会社
- 株式会社リーフ パブリケーションズ
- 株式会社CRETARIA
- 株式会社特殊高所技術
- 株式会社レドネスタ
- 京都観光オープンデータ協議会
- 有限会社中小企業診断所エス・ピー・シー
- 日新電機株式会社
- 株式会社丸嘉
- 西垣金属工業株式会社
- 東邦電気産業株式会社
- 生田グローバル株式会社
- 叡山電鉄株式会社
- 株式会社フラットエージェンシー
- 株式会社フーズジャパン
- 佐々木酒造株式会社
- 京都オスカークラブ

- 株式会社ドレスクリエイト
- NPO法人 OUEEN JAPAN
- 株式会社三笑堂
- 株式会社ビジネスプラスサポート
- 株式会社メディアエージェンシー
- 株式会社フジタ
- 株式会社川勝總本家
- 株式会社キャミー
- 株式会社worldlink & company
- 株式会社世代継承活学社
- 増田産業有限会社
- 株式会社ヒューマンフォーラム**
- 株式会社OPA
- 株式会社ライフ住宅販売
- 株式会社タナベ
- 株式会社伴戸商店
- 株式会社大東技研
- 株式会社陶あん
- 株式会社エクスクラメーションスタイル
- 株式会社誉勤商店
- 株式会社サン食品
- 西南ロータリークラブ
- 堀川と堀川通りを美しくする会
- 京都中小企業家同友会
- 株式会社ジーユー
- 京料理 二傳
- 株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所
- 株式会社坂製作所

- 株式会社クレバー
- 三浦仏像彫刻所
- 丸太町地区飲食店9店舗
- 株式会社たまゆら
- 株式会社アグティ
- 一般社団法人京都試作ネット
- 株式会社意匠京念珠板倉
- 株式会社きたやま南山
- 株式会社カケザン
- 株式会社福寿園
- 株式会社西浅
- 株式会社イシダ
- 菅原精機株式会社
- 洛西紙工株式会社
- 有限会社中村ローソク
- 株式会社Q's
- 株式会社サーカスコーヒー
- 株式会社ニッセン
- 株式会社アグオル**
- 合同会社津田樓**
- 株式会社カネ七畠山製茶**
- 洛西紙工株式会社**
- 吉村織物株式会社**
- TOPPAN株式会社 京都営業所**
- 招徳酒造株式会社**
- 株式会社アーバンリサーチ**
- 株式会社京都紋付**

83 企業・団体

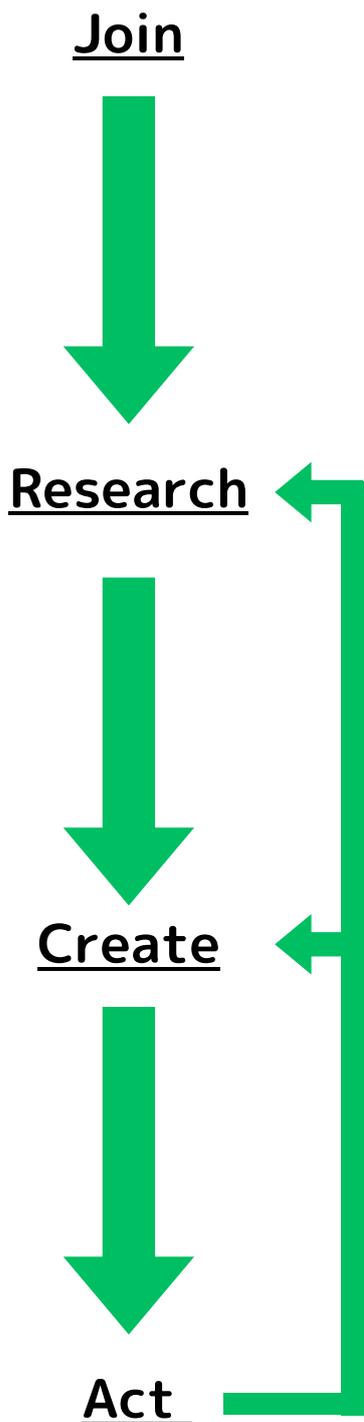
※前事業である「京都企業と連携した次代の京都を担う人材（担い手）育成事業」と合わせて10年目となる

# III.課題解決型プロジェクト（PBL）紹介

	プロジェクト名	連携企業
	①食に関する3社連携！ 短期集中インターンシップ型PBL ～チャレンジサマープロジェクト2023～	株式会社アグオル
	②食に関する3社連携！ 短期集中インターンシップ型PBL ～チャレンジサマープロジェクト2023～	合同会社津田楼
	③食に関する3社連携！ 短期集中インターンシップ型PBL ～チャレンジサマープロジェクト2023～	株式会社カネ七畠山製茶
	④学生マンションにあったら 嬉しいダンボール家具を考える プロジェクト！	洛西紙工株式会社
	⑤「内機帯地」西陣織魅力発信 プロジェクト	吉村織物株式会社
	⑥日本を代表する酒の名産地 京都伏見の蔵元で 「酒造りにかける信念と情熱 ～伝統と挑戦～」を学ぶ	招徳酒造株式会社
	⑦突破しよう！もっと京都が好きになる プロジェクト	TOPPAN株式会社
	⑧⑨⑩将来世代と服の未来を考える ～将・服・万・来プロジェクト～	株式会社ヒューマンフォーラム 株式会社アーバンリサーチ 株式会社京都紋付

# < 課題解決型プロジェクトの流れ >

下記流れで課題解決を実施。進捗段階に応じて試行錯誤し、実践しては前過程に立ち戻ることを繰り返し、企業の魅力や特徴を活かした実現可能性の高い成果物の作成を目指した。本事業では、短期・中長期でも同じ流れをベースにプロジェクトの設計・運営を進めた。



## ① チームビルディング



## ② リサーチ

- ・ 企業・業界研究
- ・ 課題解決に係る調査
- ・ 企業訪問



## ③ アイデアブレスト

(アイデア出しワーク)



## ④ 企画立案

(解決策の考案)



## ⑤ 中間報告



## ⑥ 企画のブラッシュアップ



## ⑦ 最終報告

(企画・活動の報告)



## ⑧ 振り返り



# ①食に関する3社連携！

## 短期集中インターンシップ型PBL

### ～チャレンジサマープロジェクト2023～

連携企業：株式会社アグオル



#### ■実施時期

2023年8月21日～2023年8月25日

#### ■参加者 合計：7名

同志社大学（1名）  
立命館大学（2名）  
京都産業大学（1名）  
京都外国語大学（1名）  
京都工芸繊維大学（1名）  
兵庫県立大学（1名）

#### ■学生への課題

企業の魅力や課題を学生視点で発見し、企業のリソースを生かして社会課題解決のアイデアを提案せよ！

#### ■概要

短期集中インターンシップ型PBLは、京都企業と連携し、企業から与えられる課題を学生チームが解決する、短期集中型の課題解決プロジェクトです。

インタビューや企業訪問などを通じて「働くとは」「仕事とは」を知りながら、社会人として必要な「チームで課題を発見し解決する力」を身に着けることができます。今回の短期PBLでは、個別の会社の課題だけを取り扱うのではなく、食関係の連携3社に共通するテーマを中心に扱います。

#### ■プロジェクトの結果・学生の学び

学生は、はんなりバナナ（高級バナナ）を若年層に受け入れてもらうことをテーマに据えて、課題解決に取り組んだ。社長との対話やバナナ農園・バナナジュース店への訪問を通し、バナナに込められた想いや活動について知った。学生は京都で唯一栽培されている安心安全なバナナへのこだわりや企業の想いを取り入れ、若者が手に取りたくなるような機会づくりを提案した。

具体的には、若者が興味を惹かれるようなロゴデザインを活用することや、バナナへのこだわりや想いのストーリーを知ってもらえるようなワークショップの提案を行った。特に、若者たちにとって身近に感じやすく、加工前のバナナに比べて購買意欲のあるバナナジュースに着目し、企業と一緒にジュースのロゴ製作やバナナジュースを作る体験ができるワークショップを提案した。

企業からは、ただバナナに触れるだけでなく、バナナへのこだわりや想いを知ってもらえるような機会を作る視点や仕掛けづくりを実際に活用していきたい、と評価をいただいた。また、実現するにはどれだけコストがかかり、どんな入り口で若者にアプローチをしていくのか？など、企業からの質問を通して、学生は自分たちの提案の、足りていない部分や改善するところ気づくことができた。

## ②食に関する3社連携！ 短期集中インターンシップ型PBL ～チャレンジサマープロジェクト2023～ 連携企業：合同会社津田楼



### ■実施時期

2023年8月21日～2023年8月25日

### ■参加者 合計：7名

同志社大学（1名）  
立命館大学（2名）  
京都産業大学（1名）  
京都外国語大学（1名）  
京都工芸繊維大学（1名）  
兵庫県立大学（1名）

### ■学生への課題

企業の魅力や課題を学生視点で発見し、企業のリソースを生かして社会課題解決のアイデアを提案せよ！

### ■概要

短期集中インターンシップ型PBLは、京都企業と連携し、企業から与えられる課題を学生チームが解決する、短期集中型の課題解決プロジェクトです。

インタビューや企業訪問などを通じて「働くとは」「仕事とは」を知りながら、社会人として必要な「チームで課題を発見し解決する力」を身に付けることができます。今回の短期PBLでは、個別の会社の課題だけを取り扱うのではなく、食関係の連携3社に共通するテーマを中心に取り組みます。

### ■プロジェクトの結果・学生の学び

学生は、津田楼のリソースを活用し、若者に祇園（京都のまち）を知ってもらうことをテーマに据えて課題解決に取り組んだ。担当者との対話や店舗への訪問を通し、明治時代からそのまま形を残している柱やガラスが印象的な建物の雰囲気、厳選された器などに触れることで、京都の歴史や店舗のこだわり・祇園の街並みの美しさを知った。現状を分析していく中で、誰でも来店可能で回転率・稼働率が高い夜のBar営業に注目し、若者が来たくくなるような、現代と伝統を融合させた空間作りを提案した。具体的には、映像や二次元バーコード（Web上の資料）を用いて、若者が店舗の雰囲気や京都の伝統文化を知ることができるような仕掛けである。

店舗のコンセプトとして、顧客が日常的に活用するのではなく、特別な日に思い出に残る非日常的な体験を届けたいという店舗の想いを学生は尊重し、店舗や京都のまちを知るきっかけを作るだけでなく、体験した内容や祇園の魅力を形（紙媒体）として持ち帰ることができるような提案も行った。

学生の提案を踏まえ「若者からみた改善点を知り、新たな刺激を受けた。すぐに実施することが可能な提案はどんどん採用していきたい」と評価をいただいた。

# ③食に関する3社連携！

## 短期集中インターンシップ型PBL

### ～チャレンジサマープロジェクト2023～

連携企業：株式会社カネ七畠山製茶



#### ■実施時期

2023年8月21日～2023年8月25日

#### ■参加者 合計：7名

同志社大学（1名）  
立命館大学（2名）  
京都産業大学（1名）  
京都外国語大学（1名）  
京都工芸繊維大学（1名）  
兵庫県立大学（1名）

#### ■学生への課題

企業の魅力や課題を学生視点で発見し、企業のリソースを生かして社会課題解決のアイデアを提案せよ！

#### ■概要

短期集中インターンシップ型PBLは、京都企業と連携し、企業から与えられる課題を学生チームが解決する、短期集中型の課題解決プロジェクトです。

インタビューや企業訪問などを通じて「働くとは」「仕事とは」を知りながら、社会人として必要な「チームで課題を発見し解決する力」を身に着けることができます。今回の短期PBLでは、個別の会社の課題だけを取り扱うのではなく、食関係の連携3社に共通するテーマを中心に取り組みます。

#### ■プロジェクトの結果・学生の学び

学生は、お茶を通して地域の方が交流を図れる場づくりをテーマに据えて課題解決に取り組んだ。社長との対話を通して、270年以上にわたる伝統と歴史やお茶業界の現状について理解を深めた。また、海外からの抹茶需要が急増している一方、国内でのお茶屋さんの消費が減少し続けている現状を踏まえ、国内での持続的な活動展開をするために、地域に根差したコミュニティ作りの必要性について社長から話を伺った。

社長の想いをもとに、これから開業するCaféの枠組みを通じて地域の方が何度も来たくくなるような仕組みづくりについて提案を行った。「手紙×お茶」をテーマに読み返したり思い返したりするきっかけを作り、継続的にお茶に興味を持ってもらえるような仕掛けを提案した。具体的には、体験したお茶の情報を載せた勤合（合い札）のようなモノを作成し、片方を体験者に持って帰ってもらい、片方を店に置いておくというものである。体験したときの様子やお茶の特徴を思い返したり、もう一度行ってみようという気持ちを連想させたりすることでリピートしてCaféを持続的に活用してもらえるような機会を創出することが可能である。

Caféの認知を広めるだけでなく、2回目以降の訪問を促すために一歩踏み込んだ提案の内容が素敵だったと評価をいただいた。

企業担当者からの質問を通して、対象の地域特有の環境や物理的制限などの調査や課題の整理が必要だと学生は学びを得た。

# ④学生マンションにあったら 嬉しいダンボール家具を考えるプロジェクト！

連携企業：洛西紙工株式会社



## ■実施時期

2023年11月8日

## ■参加者 合計：12名

京都教育大学（1名）

立命館大学（1名）

龍谷大学（1名）

京都産業大学（4名）

同志社大学（1名）

京都大学（1名）

京都外国語大学（1名）

大阪府立大学（2名）

## ■学生への課題

学生マンションにあったら嬉しい、ダンボールを利用した家具のアイデアを考え提案せよ！

## ■概要

洛西紙工さんは主に95%以上の国内資源循環が行われ資源循環の優等生であるダンボールを取り扱っています。60年以上の歩みで培った技術や小ロット・即納対応の柔軟性を活かして物流や暮らしを支えるだけでなく、関わる人の幸せを最大化し、持続可能な資源循環型社会の実現に向けて活動しています。また、2025年大阪・関西万博に向けた、業界や地域の垣根を超えたプロジェクトにも参画し始動しています。

今回は、ダンボールを活用して、「学生マンションにあったら嬉しい家具」を学生目線で企画から試作を繰り返して形にし、提案するプロジェクトです！

## ■プロジェクトの結果・学生の学び

ダンボールがリサイクルされる仕組みやダンボール業界の資材の流れ、梱包材以外の使い方について企業より説明を受けた。それを聞いた学生は、ダンボールの活用について価値観が180度変わったと述べていた。学生だけでなく企業担当者も一緒にアイデアブレインストーミングのワークショップを行ったことで、ただ家具のアイデアだけでなく、ダンボールの専門的な知識も活かされ、具体的に機能面やデザイン面などの視点にも触れながらアイデアが磨かれた。

折りたたみ椅子、眼鏡ケース、TV台、植木鉢、下駄箱、スピーカー、靴ベラ、ハンガーなど40個以上のアイデアを出すことができていた。アイデアの実現性を考える中で、ダンボールは長期的に使用するのではなく、期間限定・一時的に活用することが向いていることや、なくても困らないがあれば嬉しく、捨てる時にゴミにならないという視点など、ダンボールで作るからこそ実現できる理由も踏まえてブラッシュアップを行った。

企業担当者からは「この短時間で、実現するかどうかは関係なくアイデアの種がたくさん出ている。明日のための飯を食うだけでなく、10年後の会社が発展している状態も視野に入れつつ経営をしないといけない、という視点が大切。今回のワークショップでは、ビジネスを実現させるのと同じようなプロセスを行っているので、この感覚を大切にしてほしい」とコメントをいただいた。

## ⑤ 「内機帯地」西陣織魅力発信プロジェクト

連携企業：吉村織物株式会社



### ■実施時期

2023年10月～2024年2月

### ■参加者 合計：8名

立命館大学（2名）  
京都産業大学（1名）  
同志社大学（1名）  
京都工芸繊維大学（2名）  
佛教大学（1名）  
精華大学（1名：留学生）

### ■学生への課題

吉村織物の魅力を発見し、学生視点で魅力を消費者へ届けるアイデアを考えよ！

### ■概要

西陣織の伝統と技術を守りながら、近年どんどん数が減っている自社工場の「内機（うちばた）」によって製織される帯地を取り扱っている吉村織物株式会社さん。吉村織物で織られる帯地は、横系に糊ではなく水を含ませる「ぬれぬき」という高度な技術を使用しているため、しなやかで軽く結び心地の良い高品質な製品です。

しかし、素敵な製品が問屋や卸業者を通じて消費者に届くとき、魅力がなかなか伝わりにくいのが現状です。そこで、学生の視点で魅力をどのように伝えられるかチームで企画し提案するプロジェクトです！

### ■プロジェクトの結果・学生の学び

吉村織物株式会社の魅力を学生視点で再発見し、消費者へ魅力を届けるためのアイデアの提案作成を行った。学生は西陣織を取り扱う吉村織物はBtoB企業だからこそ消費者（特に若者）からの認知度が低いこと、また業界全体の構造に関する課題を知り、業界認知の拡大や既存のルート以外の販売方式の考案をコンセプトに、着物を着る機会の創出を行えるようなシステムの提案を考えた。

具体的には、工房見学やまち歩きツアーなど定期的なイベントの開催や、職人へのインタビューをはじめとした、消費者が普段知ることができない業界のディープな部分を取り上げた記事を掲載する紙媒体メディアについての提案を行った。企業担当者からは「実現性の高い提案で、ここまで完成度が高いとは想像をしていなかった。まずは商品の認知度を意識するという観点が良かった。近年、素材を活用し、バックやアクセサリ等の新たな製造分野へと転換している企業も多くあるが、認知度が低いまま形を変えてもうまくいかないため、今回のような認知の土台を作る提案を参考に、今後の事業展開を検討したいと思う」と講評をいただいた。

学生は、業界の仕組みや、普段触れることができない企業の裏側、職人の熱い想いを知った。また、プロジェクトの活動や提案を通して、伝統産業を残していく大切さ・意義を改めて学んだ。

# ⑥日本を代表する酒の名産地 京都伏見の蔵元で「酒造りにかける信念と情熱～伝統と挑戦～」を学ぶ

連携企業：招徳酒造株式会社

# 招徳

SHOUTOKU SHUZO  
FUSHIMI KYOTO

## ■実施時期

2024年2月17日

## ■参加者 合計：10名

京都教育大学（2名）

京都女子大学（1名）

龍谷大学（1名）

京都産業大学（1名）

京都府立大学（1名）

京都大学（1名）

京都美術工芸大学（1名）

京都橘大学（1名）

放送大学（1名）

## ■概要

みなさんは「純米酒」を知っていますか？

純米酒とは、米と米麴、水だけが原料の日本酒で、米の旨みやコクをしっかりと味わえる特徴があります。※同じ日本酒でも「醸造アルコール」が添加されているものは、純米酒とは表記できません。

今回「京都・伏見で酒造りの歴史と文化、最新のトレンドを学ぶ～伝統と挑戦～」をテーマにして現場訪問を開催します。

訪問する企業は、招徳酒造株式会社です。

この会社は純米酒にこだわり、正保二年（1645年）に創業以来、長年にわたって日本酒の製造に取り組まれています。特に、京料理に代表される素材を生かした料理と味わいを高めあう理想の食中酒を造られておられます。

京都の酒蔵が酒造りに取り組む信念、情熱に触れ、酒造りの奥深い歴史と文化、最新のトレンドを学んでみませんか？

## ■プロジェクトの結果・学生の学び

本プログラムでは「京都・伏見で酒造りの歴史と文化、最新のトレンドを学ぶ～伝統と挑戦～」をテーマに、伏見区にある酒蔵、招徳酒造株式会社を訪問した。訪問の始めには企業担当者から、京都伏見における日本酒の歴史や文化、技術面、業界の現状、業界の抱える課題などについて説明をいただいた。続く酒蔵見学では、普段立ち入ることのできない日本酒造りの現場の見学や、日本酒及び仕込み水の試飲を行った。冒頭の担当者からの説明の中から「日本酒の消費量が減り続けている」という課題に着目して対話を行い、学生と社会人の双方が学びや気づきを得る場となった。

参加学生からは「実はあまり日本酒を知らなかった。米からできていることは知っていたが、具体的な製造過程については知らず、本日の訪問を通して、実際の工程（洗米・樽での仕込みや蔵内の香り）を体験できたため、非常に勉強になった。お話を聞き、見学できたことで、酒造りや京都の酒造の取組みに興味を持ち、京都の他の酒造会社についても知りたくなった」や「アルバイトで日本酒を取り扱っているが、単なる製造過程しか知らなかった。今日の企業訪問を通して、酒造りにかける企業の想いや努力を知ることができ、良い経験になった。地域企業にもたくさん魅力があることに気づき、今回知ることができた魅力を自分たち若者が広めていかないといけないと思った」等、声が上がった。

また、企業担当者からの講評として「とても勉強になった。学生が提案した逆説的な方法や、弊社にはない、学生ならではの視点や感想が面白いと思った。今回の訪問をきっかけに、若者がより日本酒に触れられる機会が増えれば幸いに思う。学生には真摯に話を聞いていただけて、これからの未来を担う若者世代がいることを実感でき、心強いと感じる」との言葉をいただいた。

# ⑦突破しよう！もっと京都が好きになるプロジェクト

連携企業：TOPPAN株式会社

## ■実施時期

2024年2月21日

## ■参加者 合計：7名

京都教育大学（1名）

京都女子大学（3名）

龍谷大学（1名）

京都橘大学（2名）

# TOPPAN

## ■学生への課題

TOPPANのリソースを活用し、学生視点でより好かれるまち京都へのアイデアを提案せよ！

## ■概要

社会的価値創造企業TOPPAN。

TOPPANは1900年の創業以来、「印刷テクノロジー」をベースに様々な事業展開を行っています。

また、SDGsを始点にグローバルな視野で、多様化するニーズに応え、新たなコミュニケーションを生み出し、世界中の人たちの未来づくりをささげておられます。

京都の大学で学ぶみなさん、そんなTOPPANのリソースを活用し、京都の課題解決策を提案することでより好かれるまち京都を考えてみませんか？

## ■プロジェクトの結果・学生の学び

TOPPAN株式会社の協力のもと、参加学生が同社の取組みを参考にしながら、京都の社会課題をテーマに設定し、京都をより魅力あるまちにするための提案を行った。

企業担当者から企業の取り組み内容について説明を受けた後、2チームに分かれてそれぞれ提案を行った。1チーム目は、課題を「学生の京都外への流出」とした。その解決のために学生マンションを核とし、企業が持つ行政や学生、企業に関する情報を利用した、京都への愛着を持ってもらうためのコミュニティ形成の施策を提案した。2チーム目は「観光客の増加による、観光名所や公共交通機関の混雑、外国人への多言語対応」を課題とした。解決の方法として、企業の持つデジタル技術と行政（京都市観光協会）が動画配信サービスにて配信している京都市内の観光地ライブ中継映像を組み合わせた、視覚のみで公共交通機関や観光名所の混雑度合いを理解できる発信媒体（モニター及びアプリ）を提案した。学生はまちをよりよくする提案を考えるだけでなく、企業として取り組む価値も意識して提案を行った。

企業担当者からは「企業の多様な事業をよく理解し、使い分けることが出来ている。提案と似ている既存事業もあるので、本日の学生からの意見を応用すれば実現可能性のある提案だった」との声をいただいた。

学生はこの活動を通して、企業の持つ様々な強みや魅力を活かして、自らが関わりを持つ京都というまちをより魅力あるものにできることを学んだ

# ⑧⑨⑩ 将来世代と服の未来を考える ～将・服・万・来プロジェクト～

連携企業：

株式会社ヒューマンフォーラム、株式会社アーバンリサーチ、株式会社京都紋付



## ■実施時期

2024年3月4日～3月8日

## ■参加者 合計：8名

京都女子大学（3名）

京都産業大学（1名）

同志社大学（1名）

京都橘大学（2名）

大和大学（1名）

## ■学生への課題

～「着倒れの街京都」だからこそできる、サステナビリティ（公益性と収益性）を実現するためのアパレル業界ムーブメントを提案せよ！～

## ■概要

短期集中課題解決型プロジェクトは、京都企業と連携し、企業から与えられる課題を学生チームが解決する企画です！

プロジェクトで接する企業人は、普段なかなか会うことができない企業の社長さんや社員さんばかり！

インタビューや企業訪問などを通じて「働くとは」「仕事とは」を知らながら、社会人として必要な「チームで課題を発見し解決する力」を身に着けることができます。

## ■プロジェクトの結果・学生の学び

アパレルに携わる企業3社にご協力いただき、4/7に京都梅小路公園で実施される循環フェスでの学生出店を、学生が取り組む提案課題として企業へ発表を行った。

学生は、企業担当者から各企業の事業（染め替え・古着・アップサイクル・リサイクル）や環境問題などの社会課題に対する取り組み・考え方の説明を受け、3社の工場や店舗の企業訪問を行った。

訪問では、普段目にするのでできない黒染めを行う現場や、アパレル店舗では顧客へ向け社会課題解決も絡めた小売りをどのように行っているか等、アパレル業界の現状を学んだ。

提案では、黒染めと古着をヒントに「影」をコンセプトとし、服好きのZ世代に向けてより古着に愛着を持ってもらうための出店を考案した。染め替えやカプセルトイ、フィッティングルーム、スナップショットなど、循環フェスではまだ取り組まれていない内容を学生ならではの視点を盛り込んだ。

企業担当者からは、「カプセルトイが学生ならではの視点で、もっと尖らせれば面白くなる」「いろいろな企画が出たので、絞り込んでみることも大切」などの講評をいただいた。

# IV.企業訪問プログラム紹介

	プログラム名	連携企業・団体
	<p>①フィールドワークで見る京都企業 ～株式会社特殊高所技術の裏側に密着～</p>	<p>株式会社特殊高所技術</p>
	<p>②世界を魅了する日本酒（Japanese Sake）の魅力を知る ～日本を代表する名産地 京都・伏見の 築100年の店舗で 最新のトレンドを学び・味わう～</p>	<p>NPO法人伏見観光協会 （伏見夢百衆）</p>
	<p>③世界に誇る京都の匠の技と先端技術が 融合するものづくり企業に密着！ ～社長や現場で働く人と対話を通じて ものづくり企業の魅力を発見しよう！～</p>	<p>佐々木化学薬品株式会社 株式会社名高精工所</p>

# ①フィールドワークで見る京都企業 ～株式会社特殊高所技術の裏側に密着～

連携企業：株式会社特殊高所技術



## ■実施時期

2023年8月29日

## ■参加者 合計：4名

立命館大学（1名）  
京都産業大学（1名）  
同志社大学（1名）  
京都工芸繊維大学（1名）

## ■概要

「人と人とのつながりを大切にし、ともに幸せになる未来を作る」という理念のもと、ロープ一本で社会のインフラを調査、点検、補修されておられる株式会社特殊高所技術さん。

よく知る橋や水力発電所、風力発電の風車、高いビル、高速道路など私たちの生活と密接に関わるあらゆる高所で活躍されている姿は、まさに社会を縁の下から支えるヒーローです！

今回は、そんな特殊高所技術さんに訪問し、普段は見ることのできない企業の裏側や、現場で活躍されておられる職人の皆様から「仕事とは何か？」「働くとは何か？」「特殊高所技術さんが求める一流とは何か？」などをインタビューします！

## ■プログラムの結果・学生の学び

企業へ訪問し、高強度のロープやハーネスを使って、普通には近づくことができない場所へ移動する技術の体験を実施。安全を実現するために、基準値以上の徹底的な整備・管理がなされていることを知った。VRを活用したロープ登り体験により、現場に出ている方の大変さや安全を徹底する意識を疑似体験した。また、担当者や創立者の想いや働くことについて話を聞くことで、学生は社会で働く意識の醸成や自身の今後の進路について考える機会となった。

学生は「特殊高所技術は、特殊な技術を持たれているからこそ、技術を誇りにそれを武器に仕事をされていると思っていた。しかし、本当の武器は人であって仲間だったところだと知った。そして、その仲間の上に技術があって、人も技術もある企業で、すごく心が熱くなった」と振り返りをまとめた。

## ②世界を魅了する日本酒（Japanese Sake）の魅力を知る ～日本を代表する名産地 京都・伏見の築100年の店舗で 最新のトレンドを学び・味わう～ 連携企業・団体：NPO法人伏見観光協会（伏見夢百衆）



### ■実施時期

2023年11月22日

### ■参加者 合計：8名

同志社大学（1名）  
京都府立大学（1名）  
京都大学（3名）  
嵯峨美術短期大学（1名）  
京都外国語大学（2名）

### ■概要

「どんな食事とも調和（マリアージュ）する！」と世界で人気の日本酒（Sake）。なんと京都府は日本で2位の日本酒名産地。中でも、良質な地下水に恵まれた京都市内では、伏見区を中心に伝統を守りつつ、最近のトレンドも取り入れた多様な酒造りが行われています。

この秋、そんな日本酒の奥深い魅力を“五感”で学ぶ現場訪問を開催。日本を代表する酒の名産地 京都・伏見の店舗を訪れ、日本酒の奥深い魅力や最新のトレンドなど、小売りの現場から見たお話や体験を通じて日本酒の“旬”な魅力を学びます。

### ■プログラムの結果・学生の学び

伏見夢百衆に訪問し、4つの項目（時間、米、アレンジ、トレンド）の違いに分けられた8種類の日本酒を体験し、日本酒の味や香り、水、お米の違いを知り様々な特徴を体感した。また、体験と合わせて質疑応答も行うことで、日本酒を作る工程の違いや伏見の文化、歴史、環境など、京都で作られる日本酒に関係するストーリーも併せて掘り下げながら触れることができた。

中には、ワイン酵母を活用した日本酒やウィスキーを意識させるようなラベルデザインなど、伝統的な日本酒のイメージとは違った小売視点の取り組みも知ることができた。「日本酒は大人が飲むもの、特別に飲むものというイメージがあったが、身近なもので意外と飲みやすく、今回のプログラムをきっかけにもっと日本酒に触れたいと思った」「初めて日本酒を体験し、未知の味だと感じ、なかなか味を言語化できなかった。しかし、飲み比べて様々な日本酒の違いを知り、ようやく「軽い」と言葉に表せたときに感動した」と学生は感想をまとめていた。

③世界に誇る京都の匠の技と先端技術が融合するものづくり企業に密着！  
～社長や現場で働く人と対話を通じてのものづくり企業の魅力を発見しよう！～  
連携企業：佐々木化学薬品株式会社、株式会社名高精工所

■実施時期

2023年12月12日

 佐々木化学薬品株式会社

■参加者 合計：5名

**NADAKA**  
CORPORATION

立命館大学（3名）  
大阪府立大学（2名）

■概要

世界でも活躍する京都のものづくり業界を支える企業「佐々木化学薬品」と「名高精工所」の企業訪問プログラムを実施します。この2社は、自社の枠を越え、「京都試作ネット」に参画し、異業種のタッグによる新しい時代の京都のものづくりも支えています。

世界で活躍する両社を引っ張る社長や社員とのざっくばらんな本音のトークを通じて、京都のものづくりやそこに携わる人の魅力に迫ります。

■プログラムの結果・学生の学び

2社の訪問を通じて、各社の取組みを知るだけでなく、就職活動の場面ではなかなか話す機会のない、何気ない話題や疑問について本音で話すことを通し、経営者や従業員、関係者の方とフラットな関係で対話を進め「働く」について考えを深めた。

佐々木化学薬品では、役員でなく社員自らが新たな制度・企画の先導者となって活躍している事例を知り、一人一人が強みや適性に合わせた仕事をするのでいきいきと働く社員の姿を見ることで、仕事のやりがいについて学んだ。

名高精工所では、普段は入ることのできない工場の見学を通して「自動化できる部分は省人化・ロボット化を推進し、ロボットは単純作業、人間はクリエイティブな仕事をする」という部分に学生は魅力を感じていた。また、社員研修事業に力を入れていることや社員一人一人のやりがいを尊重し、よりよい会社作りに向けた取り組みの魅力にも触れることができた。

2社訪問後、卒業後に海外に行くことを考えている学生は、「こんなにかっこいい大人がいるなら京都に残りたい、インターンに参加してみようかな」と地域企業の魅力を感じ、将来の選択肢の幅が広がったことについて自身の心境の変化を話していた。加えて、アフリカで実施している社会課題解決の事例を伺うことで、中小企業でもグローバルで活躍している「京都のモノづくり」の偉大さについて実感した。

# プロジェクト活動写真集



アグオルバナナ畑訪問の様子



アグオル訪問の様子



津田楼訪問の様子①



津田楼訪問の様子②



カネ七畠山製茶訪問の様子①



カネ七畠山製茶訪問の様子②

# プロジェクト活動写真集



グループワークの様子



学生と企業ワークショップの様子



提案発表の様子



企業説明の様子



洛西紙エグループワークの様子



吉村織物訪問の様子①

# プロジェクト活動写真集



吉村織物訪問の様子②



吉村織物訪問の様子③



招徳酒造グループワークの様子



招徳酒蔵見学の様子①



招徳酒蔵見学の様子②



招徳酒蔵見学の様子③

# プロジェクト活動写真集



TOPPANワークショップの様子



TOPPANグループワークの様子



提案発表の様子



ワークショップの様子



提案作成の様子



インタビューの様子

# プロジェクト活動写真集



京都紋付訪問①



京都紋付訪問②



京都紋付訪問③



アーバンリサーチ訪問①



アーバンリサーチ訪問②



最終提案の様子

# プログラム活動写真集



特殊高所技術訪問①



特殊高所技術訪問②



特殊高所技術訪問③



特殊高所技術訪問④



伏見夢百衆訪問①



伏見夢百衆訪問②

# プログラム活動写真集



伏見夢百衆訪問③



伏見夢百衆訪問④



伏見夢百衆訪問⑤



佐々木化学薬品訪問



名高精工所訪問①



名高精工所訪問②

# 地域企業と連携した次代の京都の担い手育成事業 2023年度（令和5年度）年次報告書 2023年4月～2024年3月

---

主催：京都市

運営：特定非営利活動法人グローバル人材開発センター

発行：2024年3月（令和6年）

編集：特定非営利活動法人グローバル人材開発センター

〒602-8061

京都市上京区甲斐守町97番地

西陣産業創造会館（旧西陣電話局）2階

Tel：075-411-5010



グローバル人材開発センター

**GLOBAL**  
Glocal Human Resources Development Center